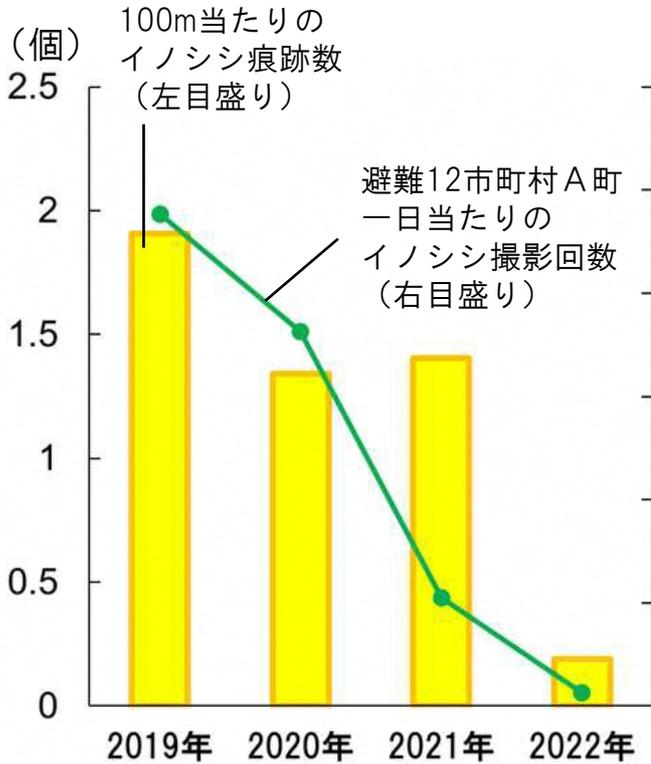


鳥獣対策だより

避難12市町村でイノシシ減少か



(回) ここ数年のイノシシに関するさまざまなデータを分析すると、避難12市町村ではイノシシの生息数が減少していると推測することができます。

避難地域鳥獣対策支援員が避難12市町村で毎年行っているイノシシ痕跡調査では、2022年に痕跡数が大きく減少しました。避難12市町村A町で行っているカメラ調査では、2021年から撮影が少なくなり始めています（左図参照）。

対策の手を緩めるのは危険？

イノシシ減少の原因はいくつか考えられますが（裏面参照）、このままイノシシがいなくなる可能性は低そうです。

ここで対策の手を緩めてしまうと、イノシシが再び増え始めた時に、今以上に被害が広がってしまうかも知れません。

これまで行ってきた対策を継続するとともに、集落柵の設置や地域で協力して行う広範囲の刈払いなど、手をつけられていない大規模な対策を今のうちに進めておくことも重要です。



大規模な掘り返しを見る機会も少ない

イノシシ減少の原因は裏面で解説

推測されるイノシシ減少の原因



豚熱（CSF）

豚、イノシシに感染する伝染病で、伝染力が強く、致死率も高いことが特徴です。2022年には避難12市町村でイノシシへの感染が確認されています。



年変動による減少

イノシシは一度に産む子どもの数が多いため、生息数の変動が大きい動物です。数年おきに増減を繰り返す傾向がありますので、一時的に自然減少することもあります。



鳥獣対策の効果

避難12市町村では、さまざまな鳥獣対策が行われています。継続的な捕獲など、対策の効果によって、イノシシの出没が減少している可能性もあります。

イノシシの生態や対策、その他の鳥獣対策については過去の「鳥獣対策だより」をご覧ください。スマホやタブレットで右のQRコードを読み込むか“福島県 鳥獣対策だより”で検索！



支援員日記

県道広野小高線で行われていた工事が終わり、富岡町から広野町まで海沿いの道が繋がりました。仕事中に車で走ってみましたが、

海を見ながらのんびり走ることが出来る気持ちのよい道でした。また少し復興が進んだことを感じました。(石井)

福島県では、避難地域鳥獣対策支援員を避難地域12市町村に配置しています。地域住民と共に鳥獣害対策に取り組み、コミュニティの再構築を図ることを目的としています。



対策のご相談、情報提供はお住まいの市町村役場の担当課へ！